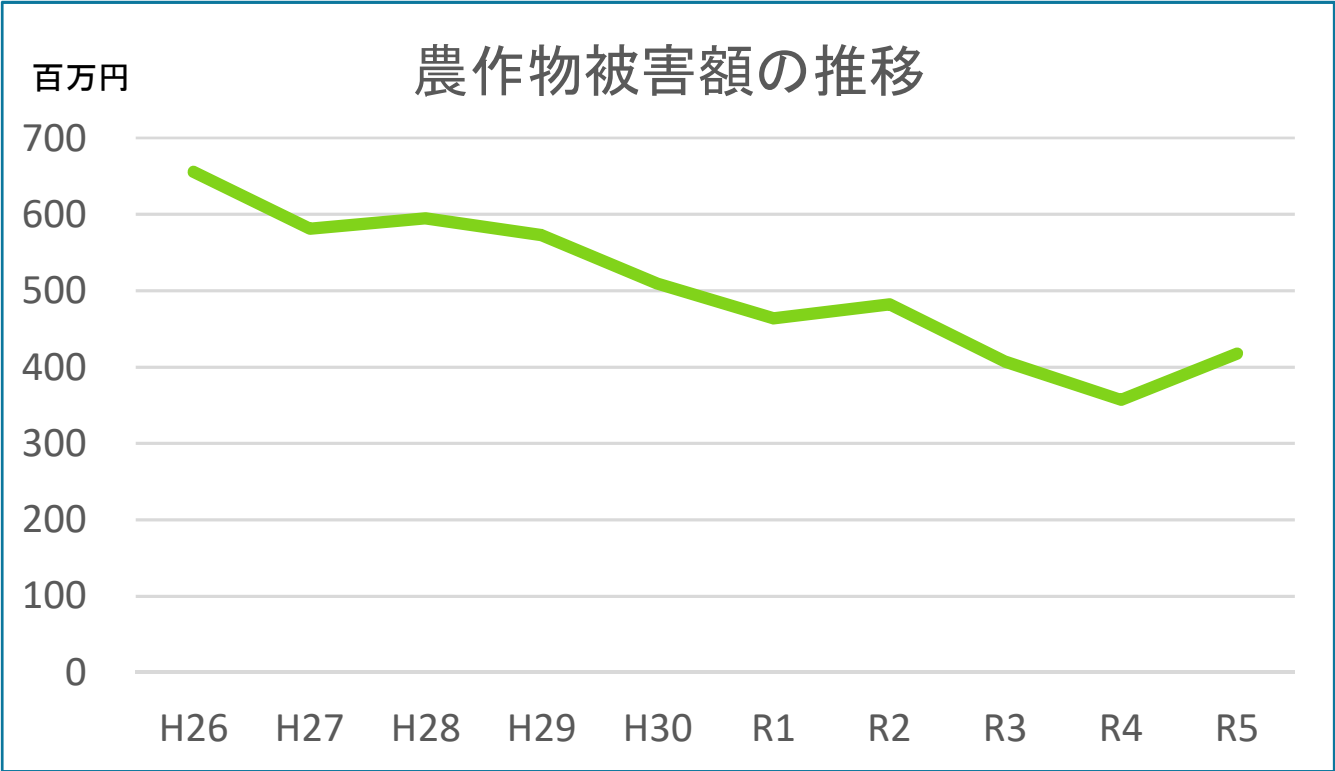
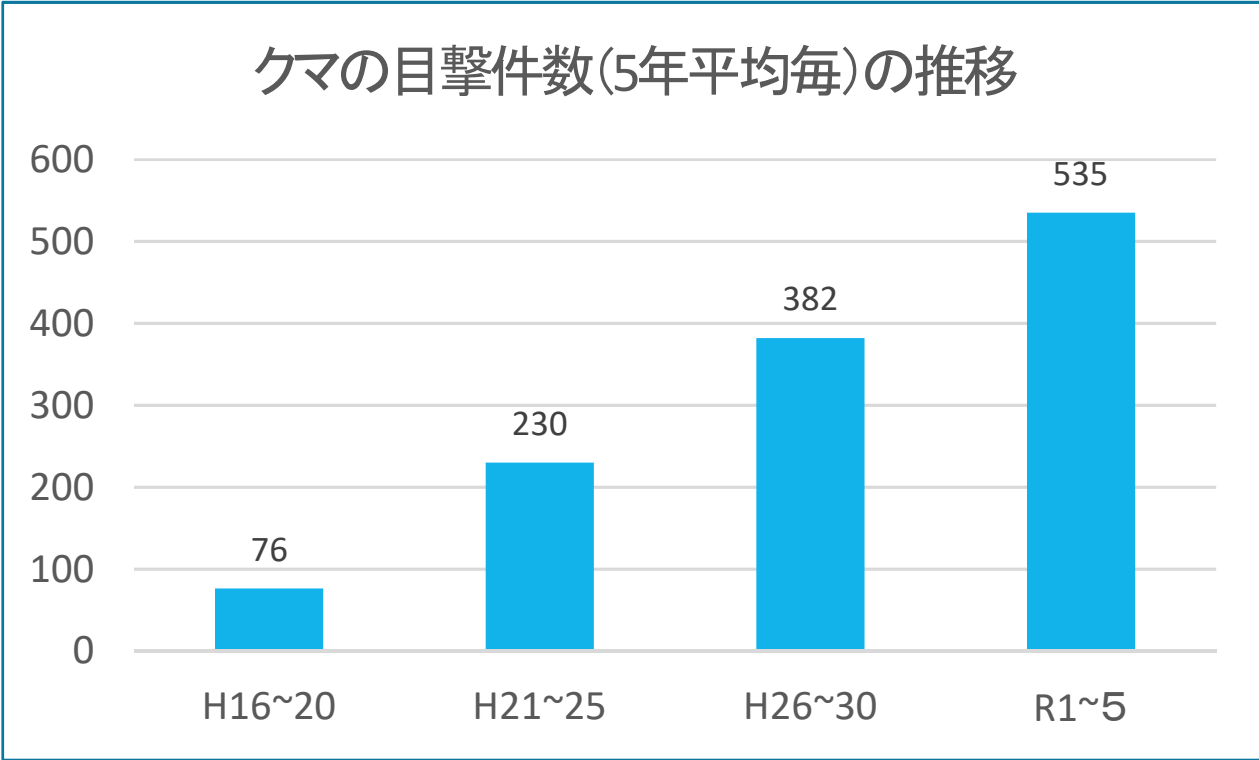


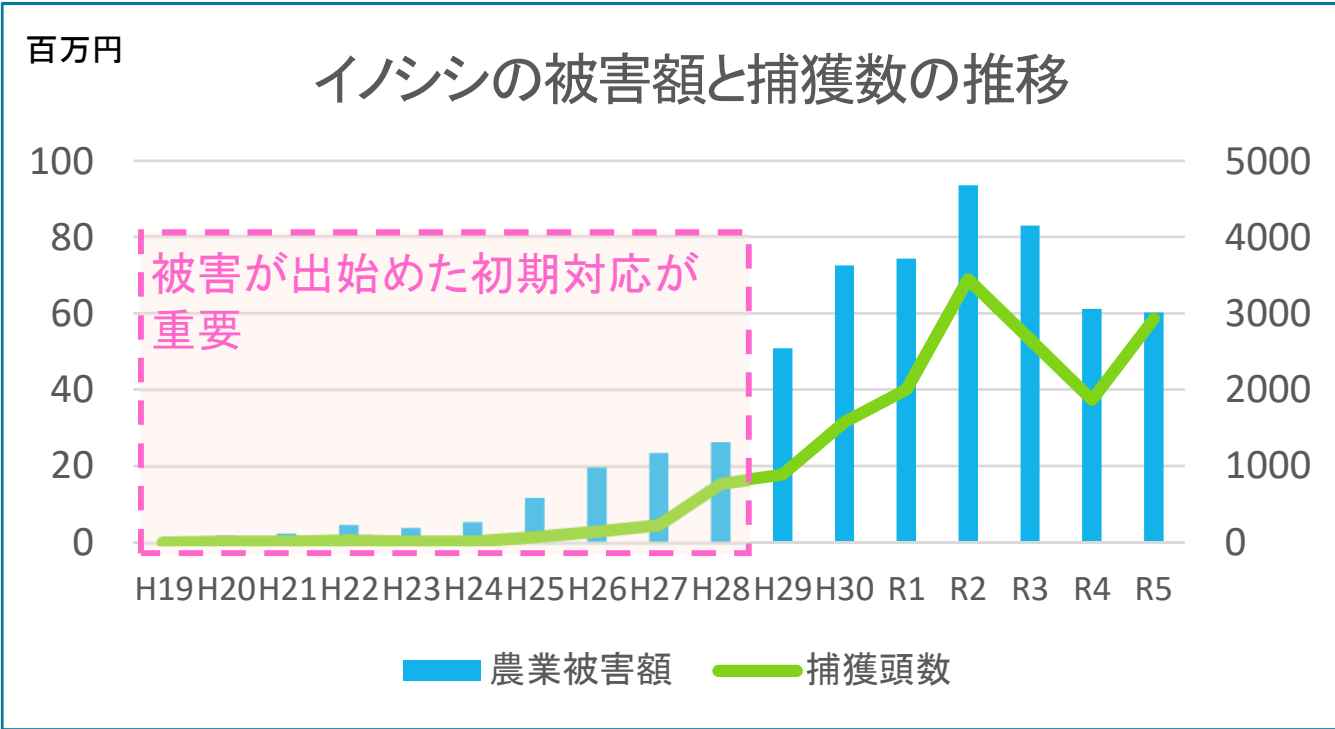
現状と近い将来の見通し



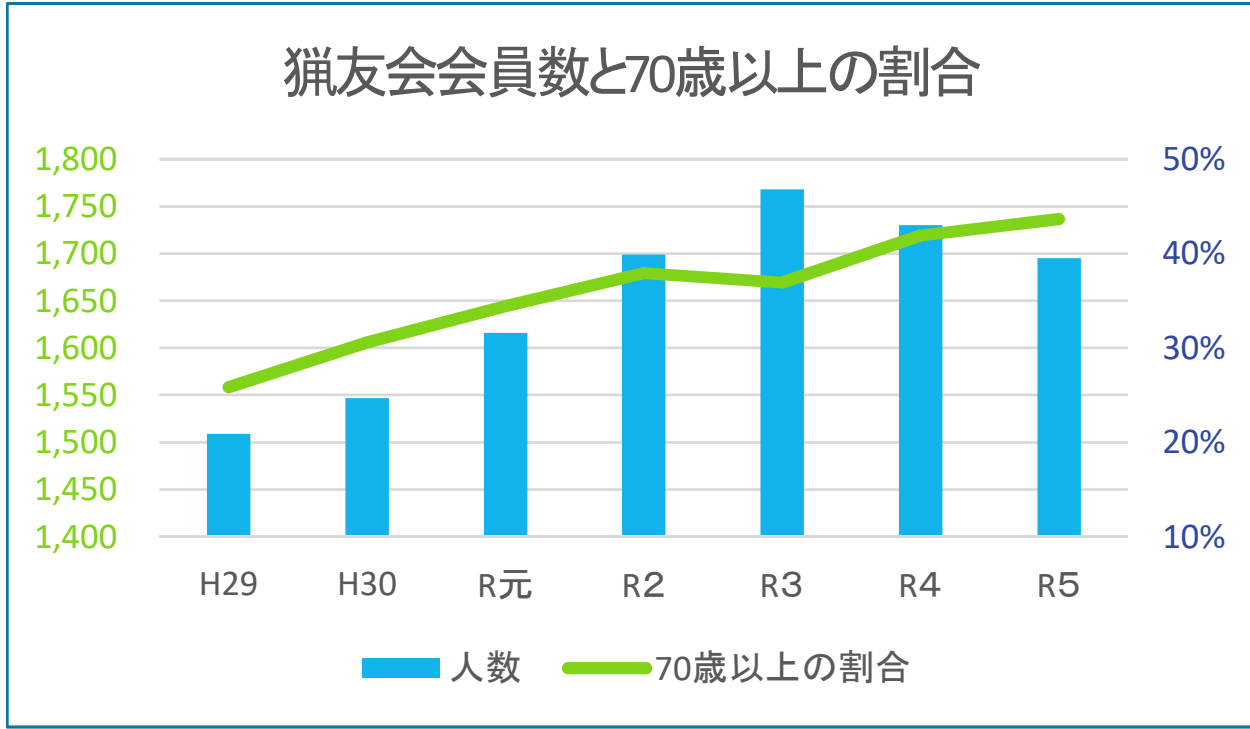
⇒減少しているが近年は横ばい。金額は東北・新潟県と比較すると、岩手県に次いで高い



⇒5年平均で見ると着実に増加傾向  
令和6年は348件



⇒ニホンジカも同様の増え方が想定



⇒高齢化により減少は不可避

## 課題

- 鳥獣の出没の増加・広範囲化への対応が必要
- 農業被害額の高止まりの改善に向け即応性が必要

## 対策側の現状

- 自治体職員のマンパワー・ノウハウ不足
- 県及び市町村における科学的知見の不足による対策の不十分さ
- 構成員の高齢化のため猟友会頼みも早晚限界  
⇒ 市町村単独では対応不可

## 解決策

行政と地域・住民との間に立ち、猟友会や山形大学と連携し、広域的・機動的に実働できる組織（中間支援組織等）の構築を目指す

## 検討の場の設置

- 令和7年度より、県と市町村等で構成する検討の場を設け、持続可能な防除体制、捕獲体制について検討を開始（5月16日に山形県鳥獣被害防止協議会を設置）

## 体制のイメージ

